



あこがれのグラナダ

フランク・シナトラが歌ってヒットした「グラナダ」を学生時代によく口ずさみ、グラナダにあこがれた。アンダルシア地方の中心都市、グラナダは日本人の多くがスペイン

部を除いてリベリア半島を支配下に置いた。八世紀末からキリスト教勢力も体勢を整えて反撃を開始。イスラム勢力は次第に追い詰められ、最後の拠点はグラナダが落城したのは一四九二年のことだ。

〈アルハンブラ宮殿〉

イスラム勢力がリベリア半島を支配した期間は七百八十一年間。最後の王朝、ナスル朝の首都がグラナダで、王様が住んだところがアルハンブラ宮殿である。

高齢とは思えない力強さがあつた



アルハンブラ宮殿の中庭

ながら書いている。クラシック・ギターの名手タレガがアルハンブラ宮殿で水の音を聴きながら作曲したといわれる。何とも哀愁に満ちた曲である。イスラム建築の最高傑作といわれるアルハンブラ宮殿は、木造建築のせいかもしれないが西欧の石の宮殿にはない人間的な優しさを感ずる。

巨大な権力を持つ者の宮殿ではあるが、どこか幻想的で、物静かな雰囲気を感じさせるのは、名曲「アルハンブラの想い出」のなせわさかもしれない。

の中に哀愁のようなものもある。フラメンコ誕生の地はアンダルシア地方なのである。現役時代、部下の女性ディレクターがフラメンコをやりたいからと会社を辞めた。男性は企業にしがみついているのに、最近の女性は自分のやりたいことのために大胆とも思える行動をとる。うらやましい限りである。彼女は周南市でフラメンコ教室を開いているイシドロ・バルガス氏のアシスタントとして今も活躍している。バルガス氏はセビリアの名門フラメンコ学校の出身とか。限りある人生、何かに打ち込む姿は輝いている。そういえば洞くつで見たジプシー・フラメンコのボスは体格の良い高齢の女性で、自信にあふれていた。ふと、彼女はどんな信仰を持って生きてきたのだろうと思った。

水は低きに流れる。いくら栄えても、有限の人間は必ず滅びるといふ寂しさがそこにあった。

「フラメンコ」アルハンブラのイメージとは全く異なるフラメンコ。スペインといえばフラメンコを連想する人も多いだろう。グラナダに泊まった夜、ライトアップされた宮殿近くの洞くつでジプシーのフラメンコを見た。狭い場所で目の前で踊るせいもあるが、ジプシーのフラメンコは激しく力強い。が、



昨年11月の発表会に左の女性がかつての部下、中央がバルガス氏